

佐賀県日中友好協会 2012 年度 第3回市民講座開講 ～幕末佐賀藩士の見た中国～

講師：岩松 要輔氏

期日：2013年3月23日（土）
午後1：30～3：00
会場：佐賀市立図書館会議室



古文書講座で講演中の岩松氏



鍋島 直正

第10代肥前国佐賀藩主。明治維新以前の名乗りは齊正(なりまさ)。号は閑叟(かんそう)。「佐賀の七賢人」の一人。



当時の上海市街(背後に城壁が見える)

～岩松要輔氏プロフィール～



小城郷土史研究会の会長を務められ、「古文書を読むことを通して地域の歴史に触れましょう」と「古文書講座」を開講。昨年度に引き続き、「江戸時代小城藩の参勤交代」に関する資料の講義をなされます。毎月第2土曜日14時から小城市歴史資料館研修室で開催。

◎幕末佐賀藩士の見た中国要旨

明治維新期に、旧佐賀藩が多数の人材を輩出した背景には、藩主鍋島閑叟(直正)の存在と、17世紀以来の長崎港警備という国家的業務に対処した経緯が由来するものと思われる。鍋島閑叟は19世紀中頃、中国清王朝の英仏などの外圧による困難な状況から、危機意識を持ち、それに対応する種々の施策を行った。海外情報の収集であり、大砲・小銃など近代的武器の導入とその訓練、及び長崎港口に台場の建設などであった。欧米の近代的潮流に対して、先ず藩内において教育の振興に手をつけ、有能な若者を国内外に遊学に出し、次いで機会を見つけて国外に派遣し、近代的な技術と情報の収集に努めた。佐賀藩から有為な若者たちが国外に派遣されるが、彼らが上海や香港で何を見聞き感じたか、残された記録から窺ってみたい。

上海城内の露店や群衆に驚くも、清国、清国人の有様を、同じ東洋人として悲痛な感触を受けている。



預園」の中の「湖心亭」

<お問い合わせ先> 佐賀県日中友好協会 事務局

〒849-0926 佐賀県佐賀市若宮2丁目14-1 ホワイトピア若宮103号

TEL&FAX 0952-33-1200

e-mail : saganichu@rapid.ocn.ne.jp

<http://www.saganichu.com>